

若手研究者コラムリレー

佐藤 洋 (さとう よう)



プロフィール

明星大学 教育学部教育学科(全学共通教育委員会) 准教授
日本体育・スポーツ・健康学会の専門領域: 体育哲学、体育社会学、体育科教育学

山形県鶴岡市 出身

2006年 山形県鶴岡高等学校 卒業

2011年 日本体育大学 教育学部体育学科 卒業

2013年 日本体育大学大学院 体育科学研究科博士前期課程 修了 修士(体育科学)

2017年 日本体育大学大学院 体育科学研究科博士後期課程 修了 博士(体育科学)

日本体育大学 総合スポーツ科学研究センター 特別研究員の他、

明星大学 教育学部教育学科(全学共通教育委員会)助教を経て、2021年より現職。

E-mail: yo.sato@meisei-u.ac.jp



(2022年度の卒業生たちと)

わたしの研究

競技者としての理想を目指した "自分(人間)"を知りたい!

私自身、(たいてい立派な実績はないのですが...)競技者の端くれでした。スポーツの世界で有名になりたいと、1番早く朝練に行き、夜練は最後まで残って練習する。それは自分にとって、とても「幸せ」な生活でした。しかし、一步学校を出て、社会になると「そんなこと」は誰も羨むようなものではありません。むしろ、ずっと頑張ってきたものを時には揶揄されることも。体育会系と呼ばれる皆さま、何だか後指を指されているような気がしませんでしたか...私はそれにとっても敏感でした。そんな時に出会ったスポーツ哲学の魅力の1つは、自分の『考えや思い』を整理して、『言葉と対話』でわかってもらえる『自己(私)』を鍛えること。

あくまで、私の体験・経験をもとに始めた研究ですが、なにも「これまで私がやってきたことは間違っていないんだ!」ということを証明したいわけではありません。人間はそれぞれの世界で善く在ることを目指す。仕事を頑張る人だって、好きなものを追いかける人だって、そうした毎日を生きる。(ダメになるために頑張る人間はいないはず!)。この導き手は、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』に依るものです。体育会系は結構DM?かどうか知りませんが、古典とはこれほどに面白いのか!と読み耽け、まるで履き潰されたシューズのように、ボロボロにした古典がお気に入りです。現在に至るまで、人間のどのような「状態」が「幸福」かに着目して、徳(アレテー)概念に関する研究をしています。

わたしの渾身の論文・書籍・記事

佐藤洋(2016)競技者の卓越と徳からみる競技者論。体育・スポーツ哲学研究。38(2):85-101.

佐藤洋(2019)競技社会の困難を乗り越える実践学:競技者の目的と努力に着目して。Research Journal of Health and Sports Science。10:1-16.

佐藤洋編集(2022)スポーツ健康科学。みらい。(先生方と作成!)

必読

(なんでも帳) 紹介させてください!

勤務校は教員養成に力を入れているということもあり、学生や教員志望の生徒は「体育嫌いをなくしたい!」とよく口にします。もちろん、この思いは大切であるに違いありません。しかし、誠に勝手ながら、私はいつも「どうしたら根本的な解決になるのか」と考えます。やはり、小さい頃の体験・経験をいかに担保するべきか?という議論は必要です。現在、小学校に体育専科教員がいても、低学年から保健体育に強みを持つ教員に必ず当たるとも限らず。それだと、保健体育の教職課程を修めて中・高で働き始めた卒業生は、小学校で「体育嫌い」が固まった生徒を相手にするという現実のなかで今後も働き続けます。

前置きが長くなりましたが、実は紹介したい人がいます。大学時代の同級生で、現在はオランダに移住して体育教師をしている安井隆(やすいたかし)先生です。彼はいま、オランダ式の体育授業のエッセンスを色々紹介してくれています。「失敗が存在しない」体育授業。よし悪し含め色々あると思いますが、色々な考え方をやわらかく学び、多面的に日本式の体育(taikū)をいつまでも考え続けていけるように、ぜひ、QRコード(youtube)から一見いただけますと幸いです。



日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました! → メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPa5fY3kcB5a2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taikugakkaiwakate@gmail.com

